

行政評価委員会説明資料

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)

地域におけるデジタル人材活躍×DX推進事業

(市事務事業:地域DX推進事業)

自動運転・MaaSから都市機能の創出へ

塩尻市が先進的に取り組んできた自動運転、MaaS、KADO(デジタル人材活躍)…
それらの事業で培った産学官のネットワークと共創ノウハウを総動員し、
革新的な都市機能を創出する**地域DXの拠点「地域DXセンター」**を整備(R4年度)

塩尻市中心市街地に集約する地域DXを支える公共施設群

塩尻情報プラザ



- 用途 | 市独自光通信のオペレーションセンター、研修室等
- 開業 | 平成12年4月
- 規模 | 900㎡ (地上2階)
- 備考 | 行政施設のサーバー等が集積



市民交流センター えんはーく



- 用途 | 図書館、貸館、交流スペース、テナント等
- 開業 | 平成22年7月
- 規模 | 11,900㎡ (地上5階/地下1階)
- 備考 | 年間65万人前後の利用者

シビック・イノベーション拠点 スナバ



- 用途 | コワーキング、貸オフィス
- 開業 | 平成30年7月
- 規模 | 800㎡ (地上3階)
- 備考 | コワーキング、アクセラ、リビングラボの3つの機能

塩尻インキュベーションプラザ



- 用途 | 貸オフィス、大学等サテライトキャンパス、研修室等
- 開業 | 平成19年1月
- 規模 | 4,200㎡ (地上3階)
- 備考 | 民間企業と塩尻市の区分所有

【当該施設】ウイングロード

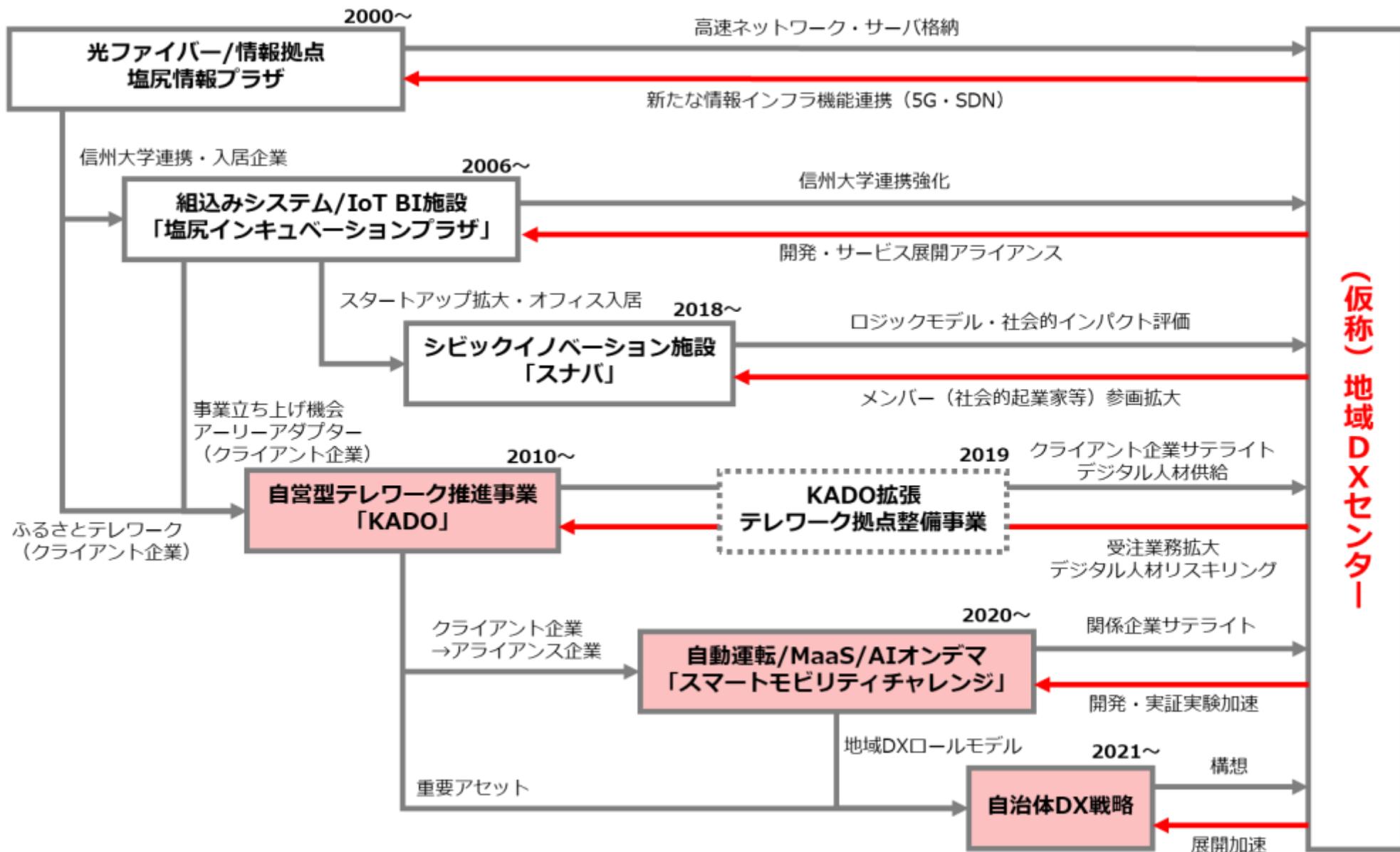


- 用途 | 商業 (生鮮/衣料/日用品)、文化支援、子育て支援、テレワーク拠点等
- 開業 | 平成5年4月
- 規模 | 24,200㎡ (地上3階/地下1階)
- 備考 | 平成22年にキーテナントが撤退し、市が床を取得。民間企業等と市の区分所有。

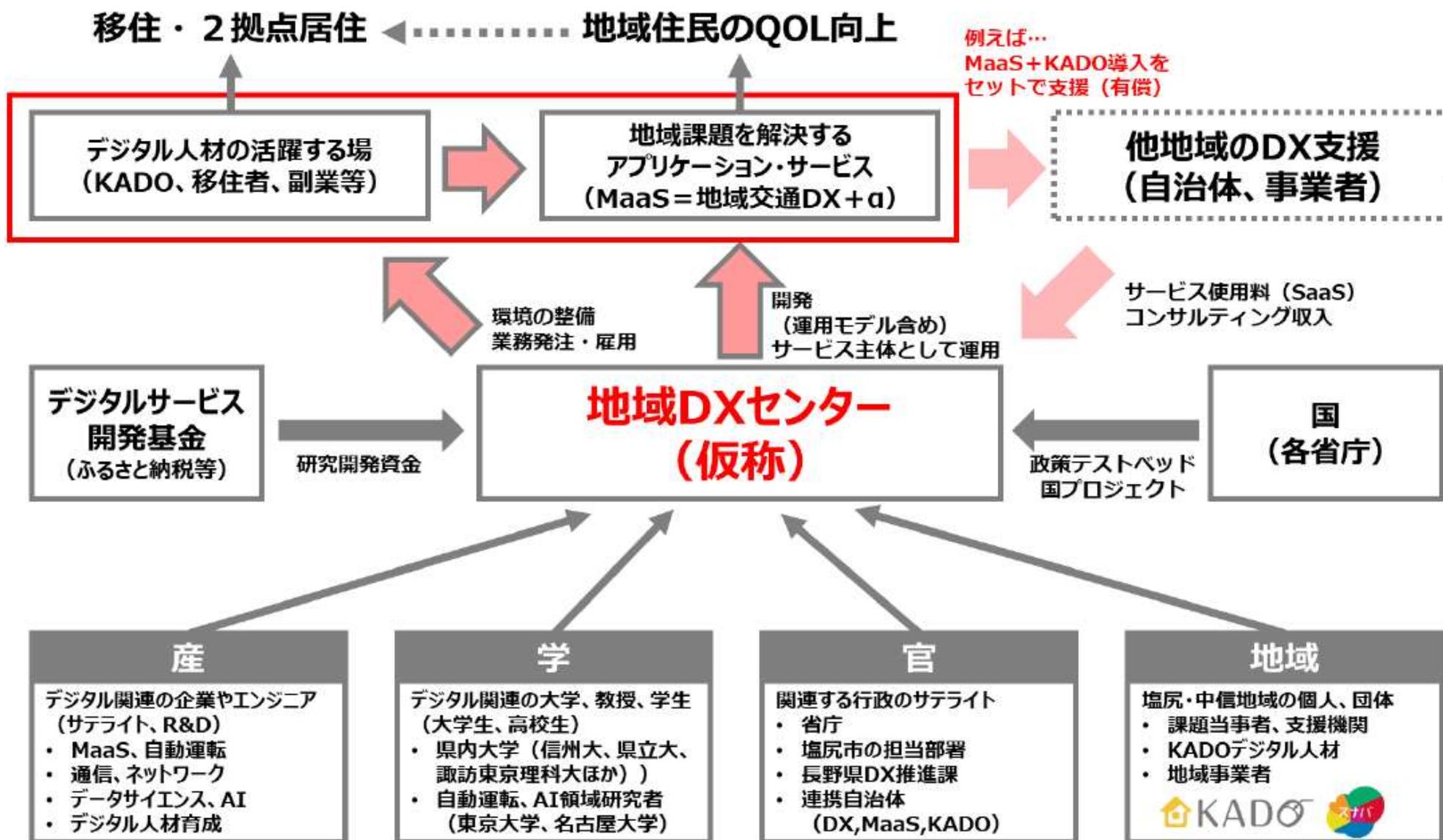


3F: KADO、こども広場、テナント
2F: DXセンター「core塩尻」、テナント
1F: テナント(ドラッグストアetc)
BF: デリシア(スーパー)

地域DXセンターのコンセプト



地域DXセンターのコンセプト



地域DXセンター整備事業の概要

■事業計画

目的	MaaSやKADOで連携する都市部のデジタル関連企業のサテライトオフィスを誘致し雇用と就労を創出する。 企業、エンジニア、大学、地域デジタル人材、若者が交流し、DXによって地域課題を解決する都市機能を創出する。
整備期間	令和4年4月～令和5年3月
場所	ウイングロード2階の一部 約2,054㎡ 市所有(普通財産)
事業主体	塩尻市振興公社(整備・運用)
事業費	4.9億円
財源	地方創生拠点整備交付金 地方創生推進交付金(効果促進分) デジタル田園都市国家構想推進交付金 (地方創生テレワークタイプ)

■施設概要

名称	地域DXセンター core塩尻 (コアシオジリ) 
コンセプト	最先端の技術を活用し、まちに変革を起こし続ける場所
オフィススペース	コワーキングスペース(約680㎡) 専用オフィス(約24㎡) 8室 専用オフィス(約12㎡) 6室
交流スペース	住民相談窓口(スマホ使い方、のるーとアプリ等) イベントスペース(小中高生、住民向け講座等) デジタル体験スペース(自動運転、eスポーツ) 市取り組みの情報発信

■オープンまでのスケジュール

令和5年 3月	改修工事完了
4月	オープン準備開始
5月24日 5月27日	一般内覧会
6月1日(木)	企業向けオフィススペース供用開始
6月17日(土)	オープニングイベント開催
6月19日(月)	グランドオープン



地域DXセンターの機能・提供サービス

最先端の技術を活用し、
まちに変革を起こし続ける場所

1. 地域の声やアイデアを集約
2. セクターを超えた共創
3. 最先端の技術の実証・活用
4. 地域デジタル人材の育成・輩出
5. 塩尻発の発信・展開

専用オフィススペース

- ・会員企業専用のオフィス空間
(シェアオフィス)



コワーキングスペース

- ・産官学民共創プロジェクトの
研究開発・実証・実装
(自動運転、MaaS、地域DX)

交流スペース

- ・DXショーケース
- ・DXイベント
- ・デジタル活用支援



アイデアラボ



プレゼンイベントや講座を開催し、子どもから大人まで幅広い世代の皆さんが最先端の技術を学んだり、アイデアを形にしたりする場所

コワーキングスペース 専用オフィススペース



会員契約をした企業が利用できる場所

会員企業を中心に、教育・研究機関、自治体・省庁などが連携して実証を行い、新たなサービスを創出

交流スペース

企業と住民がヒアリングや意見交換を行い、地域課題や思いからアイデアを生み出す場所



オープンハブ



高齢者などが気軽にスマートフォンの使用方法などを相談する場としても活用

デルタルーム



最先端の技術や開発中のサービスに触れることができる場所

子どもから高齢者まで、家庭では出来ないeスポーツなどデジタルを活用したサービスを体験

企業共創

- グランドオープンイベント(住民への企業取組み周知)
- MaaS研究会・エプソン事業所視察(企業間交流)
- 自動運転を題材とした小中学校教育



- 自動運転L4Dセミナー(官民ネットワーク強化)
- 地方創生テレワーク推進セミナー(官民ネットワーク強化)
- パートナー企業主催イベント
- 地域企業向けセミナー



住民共創

- デジタルアート体験(生成系AIの体験)
- グランドオープンイベント(施設活用や企業取組みの周知、施設利用のきっかけ作り)
- 夏休みイベント(体験型デジタルアート・eスポーツ体験)



- eスポーツ大会・部活動(企業・地元高校との連携)
- 大門マルシェコラボイベント(地域活性化、パートナー企業による住民ニーズの収集)
- シニアeスポーツ講座(デジタル×介護予防)
- スマホ講座・相談会

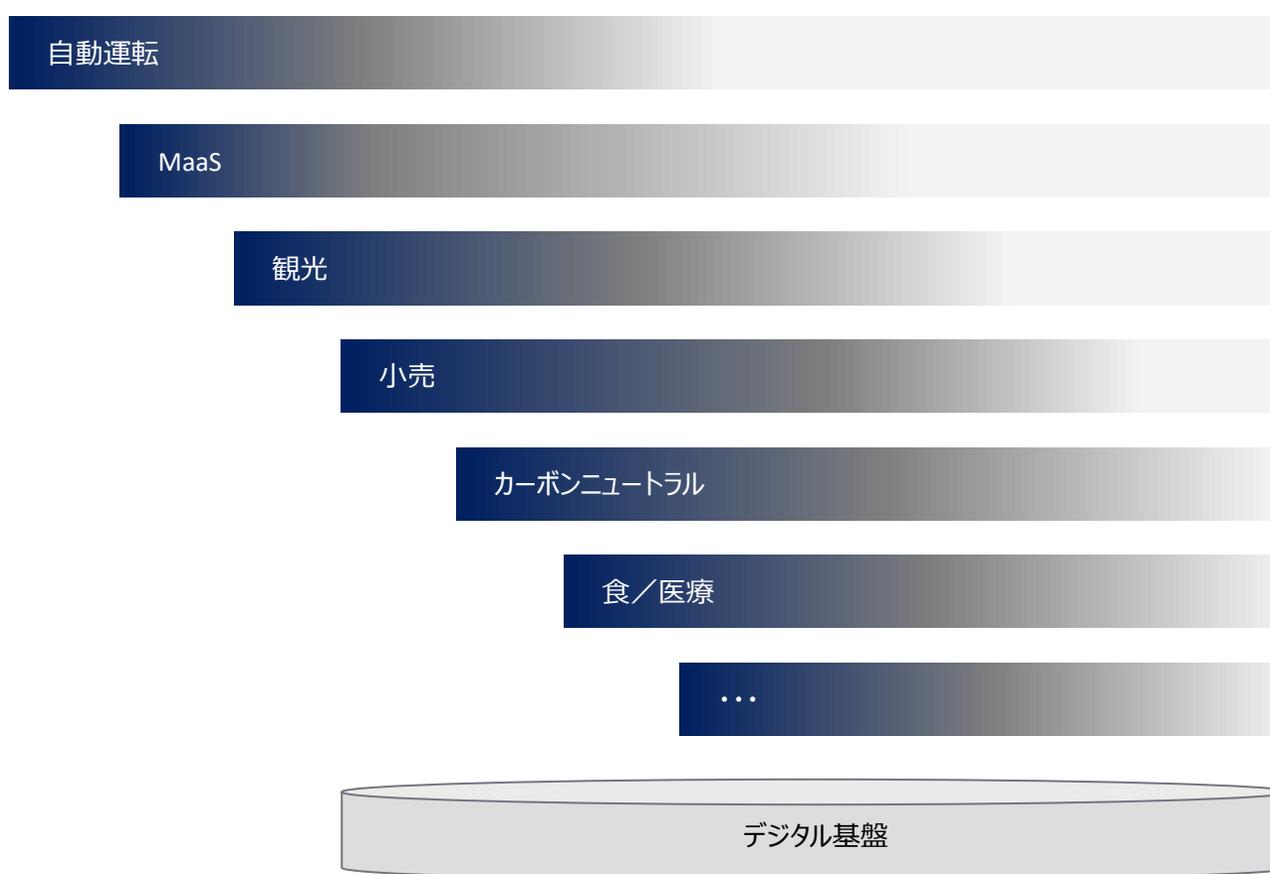


KPI	2022年度		2023年度		2024年度
	目標	実績	目標	見込み	目標
交通DX分野で社会実装したサービス数	0件	0件	1件	1件	1件
事業開発プロセスに参画した企業数	5者	5者	5者	5者	5者
交通DX分野での実証実験数	5件	5件	5件	7件	5件
自営型テレワーク事業からキャリアアップし事業開発プロセスにおいて就労した地域デジタル人材数	0人	0人	25人	28人	50人

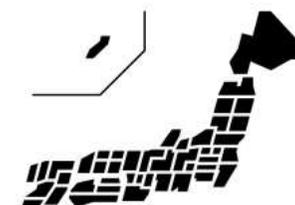
- ・ 地域DXの一環で自動運転・MaaSを起点に、幅広い分野に取り組みを拡張
- ・ 域外への“輸出”を目指し、塩尻のみならず、その他自治体やひいては世界に貢献



事業テーマ



近隣自治体
(松本、安曇野等)



日本全国自治体
(地方中核都市)



海外

地方創生・DX領域における今後の展望

